

●私たちは時に、古い価値観や制度によって力を失ってしまった人や社会、教会などの姿に直面します。そこに新しい、生き生きとした命を取り戻すために立ち上がる人々を私たちは改革者と呼びます。あのマルティン・ルターはドイツで教会の改革を行いましたが、今日歌う讃美歌を作ったアイザック・ウォッツもまた改革者でした。17-18世紀イギリスで当時古い「詩編」の讃美歌しかなかった状況の中で、新しい讃美歌を世に生み出したのです。このような宗教改革者たちの考えの土台となったのが今日のガラテヤの信徒への手紙です。

●これは使徒パウロの手紙の中でも、最も感情的に情熱を持って書かれています。その理由は、当時イエス・キリストから離れ、古いユダヤの教え「律法」に従おうとする人々があったからです。ガラテヤの教会の人々の多くは異邦人、つまり聖書の知識もユダヤの文化も知らない人々でした。彼らはただイエス・キリストを信じることによって教会につながりました。しかし、後にユダヤ主義者が教会にやってきて「本当にキリスト者として完全とされるには割礼を受けなければいけない。」と教えたのです。「割礼」とは旧約聖書の律法に記された儀式ですが、それはユダヤ人の証、神の子としての誇りとなっていたからです。

●しかしパウロは、割礼がもたらすものは、ユダヤ教徒からの迫害を免れられるというこの世の利益であり、また神の前に自分自身を誇る事でしかない。そのような割礼や律法は本当の意味で人を解放し、新しく作り変えるものとはならないのだと考え、「割礼の有無は問題ではなく、大切なのは新しく創造される事です」と言ったのです。パウロはただキリストの圧倒的な愛を深く受け止める事が大切で、そこに「聖霊」が豊かに注がれることによって人は新しく創造されるのだと教えているのです。

●イエス・キリストの愛にこそ、私たちの誇りがあり、人を新しく創造する力がある。その事に立ち返り、時代に応じてそのキリストの愛が民衆に深く届くようにと様々な改革を行なっていった人々の精神を私たちは大切にしたいのです。特に若い世代に届く言葉で、感覚で、イエス様が私たちのためにその命を十字架で捧げられたという圧倒的な愛と恵みを伝えることができる教会となっていけるよう、共に願い求めてまいりましょう。